

「ご飯を食べられる幸せ」

樹徳小学校 六年 猪原 穂

私の名前は「穂」と書いて「みのり」と読みます。私の両親が十月生まれの私に、田舎の稲穂がたわわに実っている様子から名付けしてくれました。実際に、祖父母の田舎は辺り一面が田んぼで秋にはたくさんのお米が収穫されます。

私は、祖父母の田舎が大好きで、家族でよく訪れます。田んぼではオタマジャクシやカエルを採ったり、近くの川で辺り一面に光っているホタルを観察したり、近所の農家の発酵おじいちゃんにおもちやを作ってもらったりします。夜ぬる時には、田んぼに水を流している水路の音とカエルの鳴き声が少しうるさいけど、すぐに慣れました。冬にも田舎に行きますが、お米の収穫が終わった田舎は、逆にとても静かで寂しい感じがします。でも新米の美味しいご飯が食べられるのは嬉しいです。

私は小さいころ一年間、両親の仕事の関係で、カナダに住んでいました。もともと、おにぎりと、うどんと、きなこもちが大好きだったのですが、外国ではなかなか食べるのができず、とても困っていました。しかし日本では、大好きなきなこもちを、思いつきり食べるのができます。日本に住んでいてよかったです。

でも、このような美味しいご飯を食べることができない人たちもいるのだと両親から聞かされました。脳卒中という頭の病気の影響で、食べることや飲み込むことにまひが出てしまったり、管から栄養をとらないといけないのだそうです。私は歯科医師である母に連れられて、そのような高齢者の家に行き、リハビリの様子を見学させてもらいました。そのお家は、たんなさんと奥さんの二人暮らしで、奥さんが病気になってしまっています。奥さんはご飯を食べることができず、たんなさんは自分のためだけにご飯をたいて

部屋のすみで申し訳なさそうに食べていたそ
うです。どうしても奥さんに、米粒一つでも
いいから、食べられるようになってほしいと
思い、私の母にリハビリを依頼したこのこと
でした。

私が見学した時には、リハビリの効果もあ
って、セリヤ、数口のおかゆが食べられる
ようになっていました。また、手にもまひが
あってスプーンが持てなかつたそうですが、
こちらでもリハビリをかんは、こ、自分でスプ
ーンを口まで運ぶことができていました。お
二人は、私のことを孫のようにやさしく接し
てくださり、昔の古いお金を見せてくれたり
しました。私は、お二人にお礼を言って帰り
ました。

私は、奥さんが一生けん命に、でもおいし
そうに、おかゆを食べている様子を見て、ご
飯がおいしく食べられることは、当たり前前の
ことではなく、とても幸せなことなのだと思
感しました。